

## 2023(令和5)年度 事業報告書

2024(令和6)年5月28日  
公益財団法人 西洋美術振興財団

西洋美術振興財団は、2023(令和5)年3月28日付の理事会で承認された2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の事業計画等を順次実施しました。

但し、計画立案時に織り込まれていないものとして、2022年度の収支相償を図るため国立西洋美術館で開催する展覧会等への協力・助成を行い、予定より拡大しての実施となりました。

### 1. 国立西洋美術館(以下「美術館」)が行う資料収集、調査・研究、教育普及・広報等への協力・助成(定款第4条(1))

#### 【講演会、シンポジウム等の教育普及プログラムに協力する事業】(12,539,604円)

美術館が開催する展覧会に関連して実施する講演会、公開座談会等の教育普及プログラムに協力又は共催し、講師の謝金等を支援しました。

〈講演会等の協力事業〉

「憧憬の地 ブルターニューモネ、ゴッガン、黒田清輝らが見た異郷」3回

(4/1、4/22、5/13)

「スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた」1回(7/8)

「パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展—美の革命 ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ」2回(10/4、11/4)

「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」1回(3/23)

〈その他の協力事業〉

「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」展開催・実施するために必要となった準備業務等への支援

#### 【資料収集及び調査研究を支援する事業】(1,112,873円)

美術館が購入を予定している作品の調査、並びに展覧会に出品を検討している作品の調査及び交渉に伴う旅費等を支援しました。

#### 【普及広報活動及び職員研修等に協力する事業】(2,372,133円)

美術館の広報誌『ゼフェロス』87号、88号及び89号の製作費の支援、広報活動のため写本はがきセット(10種)の提供、教育普及活動のため「スペインのイメージ」展における絵葉書の提供を支援しました。

#### 【研究の成果としてカタログを刊行する事業に協力する事業】(517,960円)

「指輪展」カタログ(再版)100部、及び「国立西洋美術館名作選(和文第6版)170部を資料交換用として寄贈しました。

#### 【世界遺産関連協力事業】

今年度の実施はありませんでした。

**【中世彩飾写本コレクションに協力する事業】**

2022年度から2023年度へ実施が延期された内藤コレクションの総目録刊行の支援が、2024年度へ再延期されました。原資である使途指定寄付（長沼基金）は2024年度の実施に向けて繰越します。

**【展覧会等の実施を支援する事業】** (4,768,500円)

「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」展のカタログやイベント開催のための企画協力等への支援を行いました。

2. 西洋美術の振興を図るための顕彰事業（定款第4条(2)）

**【西洋美術振興財団賞の贈呈】** (2,400,686円)

第18回財団賞を次の2件2氏に贈呈し、文化振興賞は該当者なしとなりました。

<学術賞>小野 寛子（練馬区立美術館 主席学芸員）

—「日本の中のマネー出会い、120年のイメージ」展—

崔 敬華（チェ・キョンファ）（東京都現代美術館 学芸員）

—「ウェンデリン・ファン・オルデンボルフ 柔らかな舞台」展—

<文化振興賞> 該当者なし

顕彰式を10月30日、東京・上野精養軒で開催しました。

3. 西洋美術に関する展覧会への協力、講演会等の実施に関する事業（定款第4条(3)）

**【展覧会への協力、講演会等の実施に関する事業】**

今年度の実施はありませんでした。

4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第4条(4)）

**【賛助会員・寄付協賛者に対する特典関係の事業】** (239,014円)

展覧会の招待状、図録などを賛助会員・寄付者に送りました。

**【研究成果刊行物等の公益的販売物を販売する事業】**

美術館内のミュージアムショップを運営して、同館研究員の研究成果による刊行物等、下記の公益性の高い販売物を、研究者から一般の美術愛好家まで、広く来館者に提供しました。

(1) 美術館研究員の研究成果をまとめた「所蔵名作選（日、英）」、「所蔵品による西洋版画の見かた」、「所蔵品による素描の見かた」等の刊行物(美術館と共同発行)。

(2) 自主企画展のカタログ及び、過去の展覧会カタログ

(3) 開催中の展覧会のテーマに合わせて品揃えした専門書から雑誌に至る書籍類。

(4) 美術館の所蔵品をモチーフにした額絵、絵はがき、複製画、オリジナルグッズ、国立美術館アートカードセットなどの美術鑑賞教育素材等。

また、2021年3月31日に立ち上げたオンラインショップの利用も増加し、実店舗とほぼ同様（一般書籍等一部商品を除く）に図録やオリジナルグッズを扱い、全国の研究者・美術愛好家の便宜に供しました。

この事業による収入は、上記諸事業の原資となります。

以上